

ささげものを供えて

主任司祭 吉池 好高

2015年の新年も一月が過ぎようとしています。1月25日には今年も信徒総会が開催され、新たな決意をもって、私たちの共同体の歩みを本格的にスタートさせました。この一年の私たちの歩みの上に神の祝福を祈りましょう。

昨年から続いている巻頭言のミサについての講話も、ことばの典礼の部分から今号からは感謝の典礼に入ります。感謝の祭儀のはじめに、奉納行列が行われます。この奉納の儀はミサの第一部であることばの典礼と感謝の典礼を結ぶ重要な位置を占めています。聖書を通して神のみことばを聴いた私たちはそれに応えて、信仰宣言をともにし、捧げものを祭壇に供えます。

私たちのいのちを支える糧の全ては、大地の恵み、人々の労働を通して神から与えられている恵みです。そのことをあらためて神のみ前に告白し、いただいている恵みへの感謝の印として捧げものを捧げるのです。司祭はパンとぶどう酒をささげて「神よ、あなたは万物の造り主。ここに供えるパンとぶどう酒はあなたからいただいたもの、大地の恵み、労働の実り、私たちのいのちの糧となるものです」と祈ります。私たちは神によって祭司の民とされた者たちです。祭司の務めはささげものを神にささげ、今年の実りをもたらしにくださった神に感謝をささげ、翌年の豊作を人々のために祈ることです。パンとぶどう酒をささげて祈る祈りは、神の恵みとして与えられた食事の席の祈りでもあります。一家の主人は食事の前にこの感謝の祈りを唱えることによって食事を家庭における聖なる感謝のまつりごととしてきたのです。イエスが弟子たちとともにした最後の晩餐もそのような聖なる食事でした。

感謝の祭儀におけるこの食事は、主が示してくださった神の国における宴会の先取りでもあります。私たちはそれにふさわしいからこの宴席に招かれたのではありません。私たちも通りすがりに無理にでもと呼び込まれるようにしてミサの場に招き入れられたのです。その席にふさわしいたった一つの条件は、招かれた喜びをともに喜ぶことだけです。そのようにしてミサは全ての人にとって、喜びの宴となるのです。